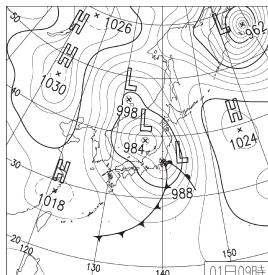


日々の天気図

— No. 194

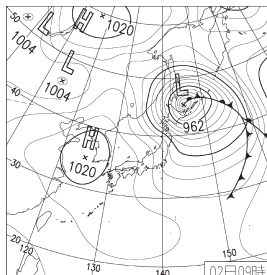
2018年3月

- 1～2日、低気圧が発達し各地で大雨や暴風。風による家屋損壊やけが人、交通障害、停電等多発。
 - 6日、新燃岳で爆発的噴火。
 - 8～9日、西～北日本で大雨。北海道では融雪による浸水被害も。
 - ・8～9日、西～北日本で高湿続く。東日本は月平均気温3月史上1位。
 - ・下旬、西～北日本で高湿続く。東日本は月平均気温3月史上1位。
- (気象庁予報部予報課)



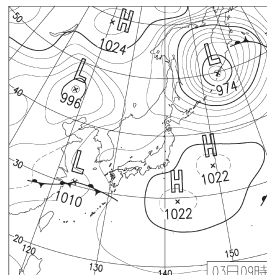
1日(木) 列島、大荒れ

急速に発達する低気圧により全国的に大荒れ。山形県飛鳥の最大風速30.2 m/sは3月の記録更新。関東中心に最高気温20℃以上。近畿、関東で春一番。沖縄県で震度5弱。



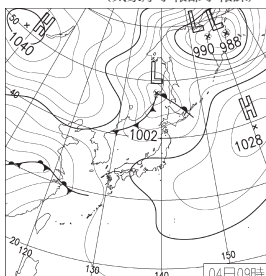
2日(金) 北海道で暴風雪続く

低気圧が発達を続け、北海道入りも岬の最大瞬間風速44.3 m/sは3月の記録更新。北日本各地で30 m/s超の最大瞬間風速。北海道大滝では日降雪量48 cm、北日本以外は概ね晴れ。



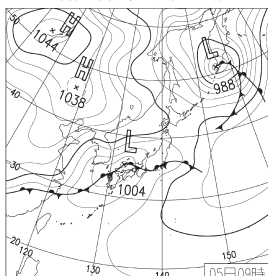
3日(土) 沖縄で局地的に大雨

東シナ海の前線を伴った低気圧が夜には九州の南へ進む。沖縄～九州・四国は雨。沖縄県粟田の日降水量146.5 mmは3月の記録更新。久米島では51.5 mm/1 hの非常に激しい雨。



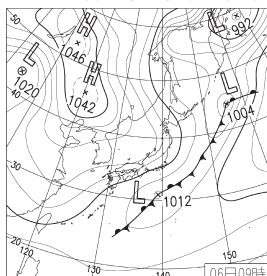
4日(日) 東北以南で高湿

前線が北日本を通過し北海道は雨や雪となるも、東北以南は概ね晴れて気温が上昇。各地で最高・最低気温が5月並。一方、北海道歌登の最深積雪214 cmは極値更新。



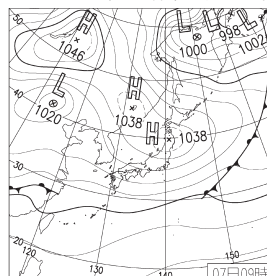
5日(月) 全国的に雨、北日本は雪

前線を伴った低気圧が本州付近を通過。西～東日本の広い範囲で雨が降り、雷を伴った激しい雨も。北日本は曇りのち雪や雨。西～東日本の最高気温は4月並だが夜は気温低下。



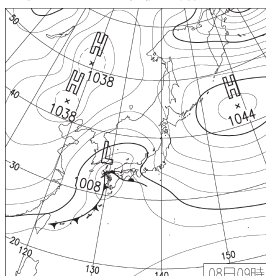
6日(火) 新燃岳爆発的噴火

新燃岳で、2011年以來の爆発的噴火。関東は未明雨が降ったが、大陸の高気圧が本州付近に張り出し、広い範囲で晴れ。北日本は冬型の気圧配置となり、日本海側中心に雨や雪。



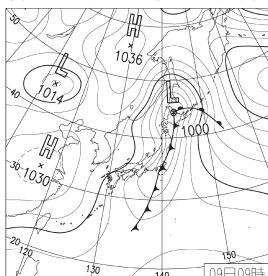
7日(水) 関東以北で真冬並

日本付近は高気圧に覆われ概ね晴れたが、太平洋側の沿岸部は曇り。関東以北は日中の気温が真冬並。一方、小笠原諸島では湿った空気により雨が降り、父島で31 mm/1 hの激しい雨。



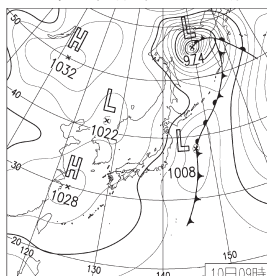
8日(木) 四国と東海で激しい雨

前線を伴った低気圧が発達しながら西日本を東北東進。三重県紀伊長島の日降水量193.5 mmは3月の記録更新。九州の朝の最低気温は平年より10℃以上高く5月下旬並の所も。



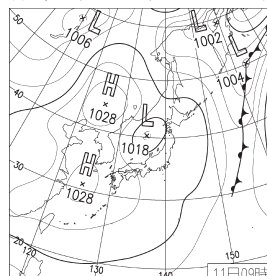
9日(金) 東～北日本で大雨

日本付近は深い気圧の谷となり、関東で非常に激しい雨。東～北日本で1時間降水量と日降水量の3月の記録更新地点多数。東北中心に朝の最低気温の平年差+15℃以上。



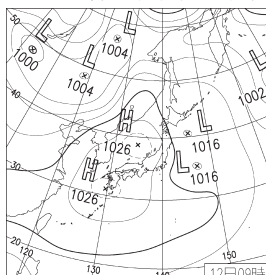
10日(土) 西から高気圧

大陸の高気圧が張り出し、日本付近は西から次第に晴れ、穏やかな1日。新燃岳で爆発的噴火。火口周辺警報を発表し、警戒が必要な範囲を概ね3 kmから4 kmに拡大。



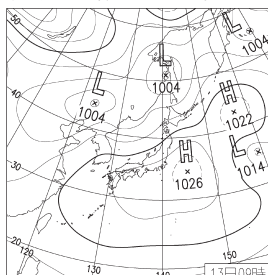
11日(日) 動きの遅い高気圧

西～東日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。北日本は秋田沖の低気圧接近で天気崩れる。銚子市でウグイスとヒバリ、高知市もヒバリ初鳴。佐賀・松山市でモンシロチョウ初見。



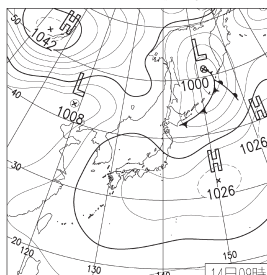
12日(月) 晴れて西日本気温上昇

雪が降った北日本の日本海側を除き、高気圧に覆われ晴れ。南風が吹いた西日本の最高気温は4月並に上昇。彦根市でウグイス初鳴。熊本市でモンシロチョウ初見。



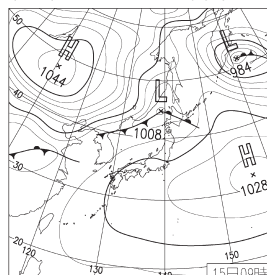
13日(火) 先島諸島で夏日

本州付近は南から広く高気圧に覆われ、晴れて気温上昇。最高気温20℃以上で、平年を10℃以上も上回り5月並の所も。北海道は気圧の谷の影響で曇りや雨または雪。



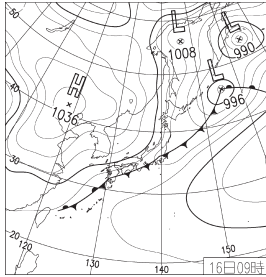
14日(水) 引き続き晴天・高温

北日本の一部で前線に伴う雨雲がかかり朝晩雨や雪が降ったほかは、全国的に概ね晴れて前日に続き気温上昇。北日本を中心に最低気温が高く、東北では6月並の所も。

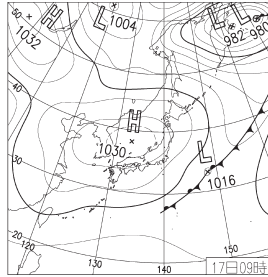


15日(木) 高知市でサクラ開花

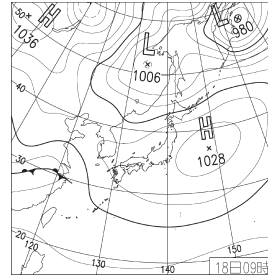
気圧の谷が接近し、西から天気下り坂。九州から雨が降り出し、夜には北陸まで。北日本は気圧の谷の通過で雪や雨。北海道の一部を除き全国的に気温が高く初夏の陽気の所も。



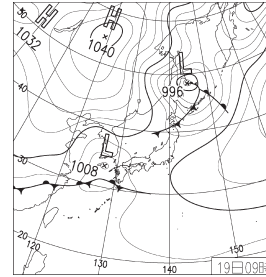
16日(金)宮崎市でサクラ開花
寒冷前線が西～東日本を南下し、本州中心に気温が10℃前後低下。全国的に雨や雪または曇り、北日本は夜晴れ。北海道道上では、最低気温が平年より10.4℃低い-19.8℃。



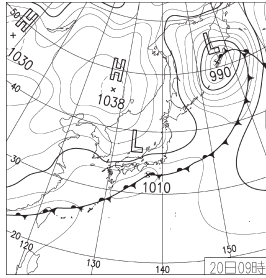
17日(土)東京などでサクラ開花
高気圧に覆われて晴れ、日中の気温は全国的に平年並だが、北日本の日本海側沿岸部では真冬並の地点も。鹿児島・熊本・長崎市と東京で平年より6～9日早くサクラ開花。



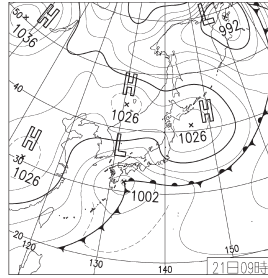
18日(日)静岡市でサクラ開花
日本の東の高気圧が西に張り出し、北日本太平洋側と東日本では日中晴れた所が多い。一方、華中の前線が東シナ海にのびだし、西から曇りて午後には九州・四国の一部で雨。



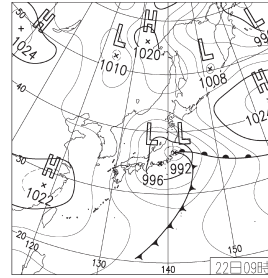
19日(月)西から天気下り坂
低気圧と前線が接近し、雨雲が西日本から東日本へ広がる。西日本を中心に暖かい朝。福岡・岐阜・松山・横浜でサクラ開花。高知市のソメイヨシノ満開は全国最早更新。



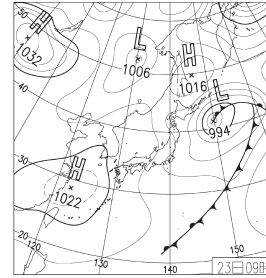
20日(火)北～東日本冬に逆戻り
本州南岸の低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美～東日本は雨。九州北部では暴風。北日本日本海側ははじめ雪や雨。佐賀・和歌山・大阪・銚子市でサクラ開花、大阪市は1位タイ。



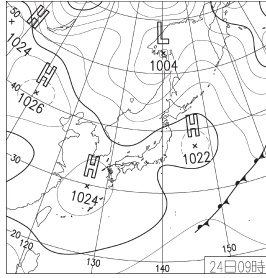
21日(水)関東甲信で降雪
本州南岸を進む低気圧の影響で関東甲信では雪。日中の最高気温は全国的に平年より低く、関東では5℃以下。高知県佐賀で54 mm/1hの雨。八丈島で最大瞬間風速31.5 m/s。



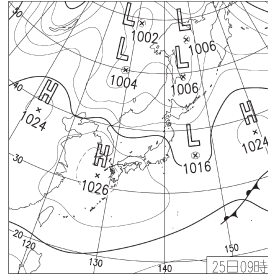
22日(木)本州で雨降り続く
低気圧の動き遅く、本州を中心に雨が降り続く。岩手県下戸鎮の日降水量82.5 mmは3月の記録更新。北海道えりも岬で最大瞬間風速31.2 m/s。広島・京都市でサクラ開花。



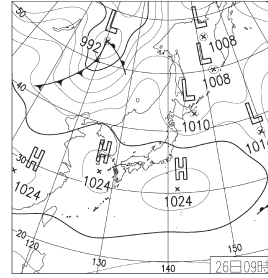
23日(金)甲府市でサクラ開花
北陸～東北日本海側は気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨や雪。関東付近も気圧の谷の影響で夕方から所々で雨。沖縄・奄美～西日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。宮城県で震度4。



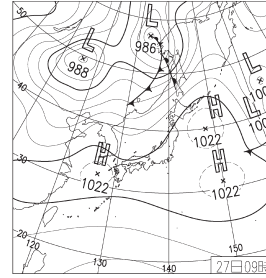
24日(土)東京でサクラ満開
高気圧に覆われ全国的に概ね晴れ。関東は気圧の谷の影響で所々で雨。最低気温は沖縄・奄美～西日本と北日本で真冬並の所があったが、最高気温は西～北日本で4月上・中旬並。



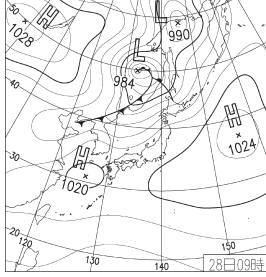
25日(日)台風第3号発生
沖縄・奄美や西～東日本は高気圧に覆われて晴れ。気圧の谷が通過した北日本は雪や雨のち晴れまたは曇り。最高気温は各地で4月並。前橋・水戸・岡山市でサクラ開花。



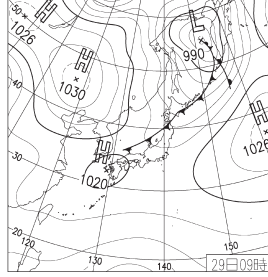
26日(月)サクラの便り相次ぐ
日本付近は高気圧に広く覆われ北日本の一部を除き晴れ。全国的に気温も上昇し初夏の陽気。松江・津・宇都宮市でサクラ開花。長崎・熊本・大阪・岐阜・熊谷市でサクラ満開。



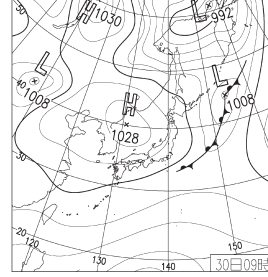
27日(火)気温上昇、融雪進む
暖気に覆われ日中の気温は各地で4月下旬～5月中旬並。18地点で3月の最高気温更新。彦根・富山市でサクラ開花。福岡・名古屋・横浜市などでサクラ満開、名古屋市最早1位タイ。



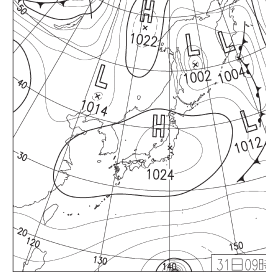
28日(水)北海道と青森で黄砂
本州付近は高気圧に覆われて晴れ。沖縄・奄美～東日本では夏日の所も。最高気温は、北海道宇登呂で7月中旬並の21.0℃をはじめ、全国のアメダス1/4の地点で3月1位の値。



29日(木)福島市サクラ開花
東～北日本を寒冷前線通過するが活動は不活発。東北で所々雨のほか全国的に概ね晴れ。最低気温は北日本太平洋側中心に5月並。最高気温は東日本中心に75地点で3月1位の値。



30日(金)全国的に晴れて高温
高気圧に覆われ全国で晴れ。最高気温は昨日より下がったものの3～4月並、九州中心に17地点で3月の記録更新。仙台市でサクラ開花。大分・富山市でサクラ満開。

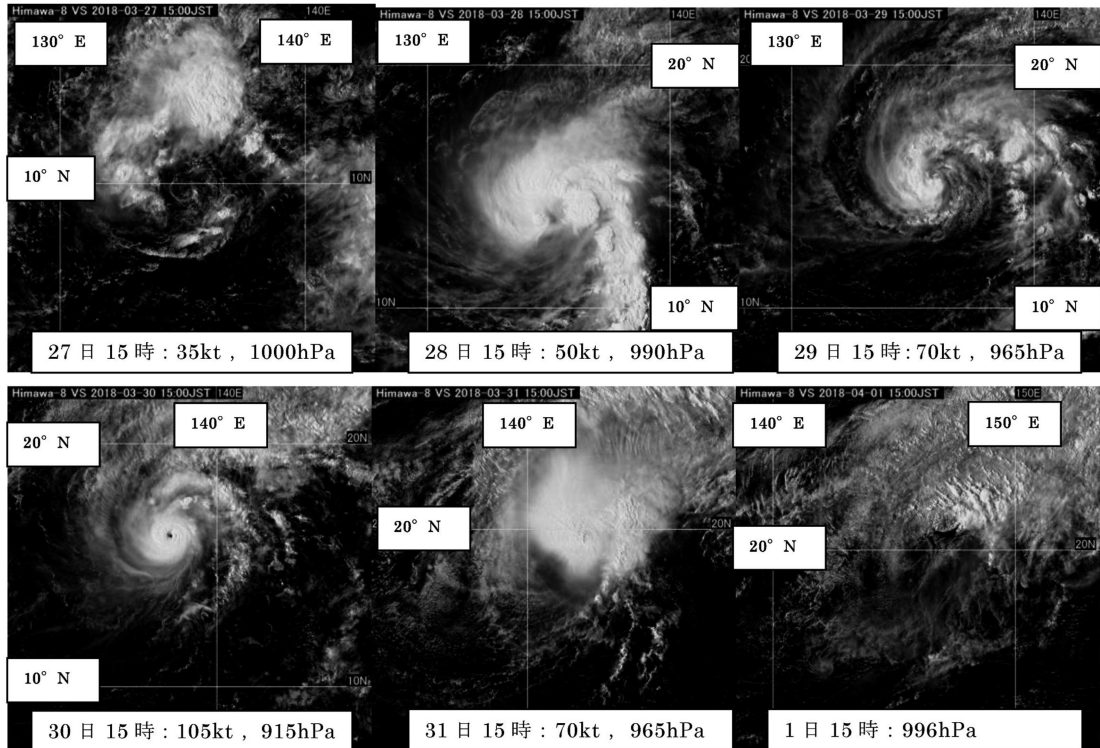


31日(土)晴れの日続く
高気圧に覆われ全国的に晴れ。放射冷却により、最低気温は東北南部などで平年より5℃前後低い。最高気温は全国的に高く、福岡県太宰府の25.4℃は5月下旬並で3月1位の値。



今月のひまわり画像—2018年3月

短期間に急発達及び急衰弱した台風第3号



第1図 2018年3月27日15時～4月1日15時（日本時間）の24時間毎の可視画像。

第1図は2018年3月27日15時～4月1日15時（日本時間）の24時間毎の台風第3号の可視画像である。

台風第3号は3月25日03時にカロリン諸島付近で熱帯低気圧（TD：1004 hPa）として発生し、同日15時に最大風速35kt（1 kt=0.51 m/s, 以下同じ）、中心気圧1000 hPaの台風に発達した。しかし、その後は27日21時までほとんど発達せず、特に27日15時には、第1図上段左図のように、中心を示唆する下層渦が北側の発達した雲域から離れるシアパターンとなった。

28日以降、台風第3号は緩やかに発達し、同日15時には最大風速50 kt及び中心気圧990 hPa（第1図上段中図）、29日15時には最大風速70 kt及び中心気圧965 hPa（同図上段右図）となった。

ところが、この後台風第3号は急発達を始め、30日

15時には最大風速105 kt及び中心気圧915 hPaと、24時間で35 kt及び50 hPa発達し、3月に発生した台風では、2015年台風第4号の40 hPa（950 hPa→910 hPa）を凌ぐ急発達の記録となった。第1図下段左図は、最盛期である同時刻の可視画像で、中心付近には明瞭な小さな眼が確認できる。

眼が明瞭となった後、台風第3号は、今度は急速に衰弱し、31日15時には最大風速70 kt及び中心気圧965 hPa（第1図下段中図）、4月1日15時には中心気圧996 hPaのTDとなり（第1図下段右図）、21時には低圧部となった。

このように台風第3号は約4日間で急発達及び急衰弱した非常に珍しい台風であった。なお急発達及び急衰弱の要因は今後の調査を待ちたい。

（気象庁予報部予報課 西村修司）